



～戮力協心～ NO.9

2023年11月10日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

会社：経営状況からして「2020年度年末手当より厳しい」という考えである。

組合：昨年度より収支改善されている！会社は出せない根拠を並べているだけではないか！

「2020年度年末手当より厳しい」は断じて許されない！再考せよ！！

2023年度年末手当第3回交渉～会社の考え～

中央本部は11月10日に「2023年度年末手当第3回交渉」を行ないました。

会社の考え

- ・2023年度は「中期経営計画2023」の最終年度であり、収益拡大に努めてきた。鉄道事業は、「あり方検討会の中間取りまとめ」を基にKGI・KPIを設定し、モーダルコンビネーションを活用して拡大をはかっている。
- ・第2四半期決算では、単体経常利益△21億円であり、2022年度より悪化している。
- ・2024年問題について問い合わせが増加している。営業を強化し、新規獲得に繋げていく。
- ・「期末手当は生活給である」との貴組合の主張は否定しないが、会社としては「半期の業績・直近の状況・社員の頑張り」という考えは変わらない。
- ・前回の交渉内容を社内議論した結果、現時点では「2020年度年末手当より厳しい」というのが会社の考えである。

組合の主張

- ・第2四半期決算は、2022年度より11億円改善されており、品目別輸送実績においても、コンテナ・車扱全体で前年を上回っており、前年度より良いはず。2024年3月期見通しでは、経常利益単体で△15億円で、3期連続の赤字かもしれないが、前年度より48億円も改善するつもりで計画達成にむけて取り組むのであれば「2020年度の年末手当より厳しい」という考えはありえない！！
- ・会社は「社員の頑張り」を判断材料に入れているが「2020年度年末手当より厳しい」という考えでは「社員の頑張り」が入っているとは思えない！私たちの頑張りは手当で見えることから、今の会社の考えではモチベーションも上がらず到底納得できない！

**前年度より良い成績を残しているにも関わらず、会社都合で手当削減をしようとしています！
職場から声をあげ、青年部の手で年末手当を勝ち取りにいこう！！**